

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.7.12-18

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

38:1 ついで、彼は、アカシヤ材で全焼のいけにえのための祭壇を作った。長さ五キュビト、幅五キュビトの四角形で、高さは三キュビト。
 38:2 その四隅の上に、角を作った。その角はその一部である。彼は祭壇に青銅をかぶせた。
 38:3 彼は、祭壇のすべての用具、すなわち、つぼ、十能、鉢、肉刺し、火皿を作った。そのすべての用具を青銅で作った。
 38:4 祭壇のために、その下のほうに、すなわち、祭壇の出張りの下で、祭壇の高さの半ばに達する青銅の網細工の格子を作った。
 38:5 彼は四つの環を鑄造して、青銅の格子の四隅で棒を通す所とした。
 38:6 彼はアカシヤ材で棒を作り、それに青銅をかぶせた。
 38:7 その棒を祭壇の両側にある環に通して、それをおかづようにした。祭壇は板で中空に作った。
 38:8 また彼は、青銅で洗盤を、また青銅でその台を作った。会見の天幕の入口で務めをした女たちの鏡でそれを作った。
 38:9 彼はまた、庭を造った。南側では、庭の掛け幕は百キュビトの撚り糸で織った亜麻布でできていた。
 38:10 柱は二十本、その二十個の台座は青銅で、柱の鉤と帯輪は銀であった。
 38:11 北側も百キュビトで、柱は二十本、その二十個の台座は青銅で、柱の鉤と帯輪は銀であった。
 38:12 西側には、五十キュビトの掛け幕があり、柱は十本、その台座は十個。柱の鉤と帯輪は銀であった。

38:13 前面の東側も、五十キュビト。
 38:14 その片側には十五キュビトの掛け幕があり、柱は三本、その台座は三個であった。
 38:15 庭の門の両側をなすもう一方の片側にも十五キュビトの掛け幕があり、柱は三本、台座は三個であった。
 38:16 庭の周囲の掛け幕はみな、撚り糸で織った亜麻布であった。
 38:17 柱のための台座は青銅で、柱の鉤と帯輪は銀、その柱の頭のかぶせ物も銀であった。それで、庭の柱はみな銀の帯輪が巻きつけられていた。
 38:18 庭の門の幕は、刺繍されたもので、青色、紫色、緋色の撚り糸と、撚り糸で織った亜麻布とでできていた。長さは二十キュビト。高さ、あるいは幅は五キュビトで、庭の掛け幕に準じていた。
 38:19 その柱は四本。その台座は四個で青銅であった。その鉤は銀であり、柱の頭のかぶせ物と帯輪とは銀であった。
 38:20 ただし、幕屋と、その回りの庭の釘は、みな青銅であった。

全焼のいけにえは原型をとどめないものですから、自我が砕かれてなくなるような全き献身を表します。また洗盤は洗い清めるものですから、聖化を表すものです。ともに金のような華やかなものではなく、青銅という地味なしかし耐久性に優れたものを使っています。また庭を造るとは、囲みを作るのですから、この世との区別を表します。荒野のようなこの世に生きながらも、献身と聖化によって、永遠の価値観を持ち、輝いて行きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶13日 火曜

出エジプト

38:21 幕屋、すなわち、あかしの幕屋の記録は、次のとおりである。これは、モーセの命令によって調べたもの、祭司アロンの子イタマルのもとでの、レビ人の奉仕である。

38:22 ユダ部族のフルの子であるウリの子ベツアルエルは、主がモーセに命じられたことを、ことごとく行なった。

38:23 彼とともに、ダン部族のアヒサマクの子オホリアブがいた。彼は彫刻をし、設計をする者、また青色、紫色、緋色の撚り糸や亜麻布で刺繍をする者であった。

38:24 仕事すなわち聖所のあらゆる仕事のために用いられたすべての金は、奉献物の金であるが、聖所のシェケルで二十九タラント七百三十シェケルであった。

38:25 会衆のうちの登録された者による銀は、聖所のシェケルで百タラント千七百七十五シェケルであった。

38:26 これは、ひとり当たりーベカ、すなわち、聖所のシェケルの半シェケルであって、すべて、二十歳以上で登録された者が六十万三千五百五十人であったからである。

38:27 聖所の台座と垂れ幕の台座とを鑄造するために用いた銀は、百タラントであった。すなわち、一個の台座に一タラント、百の台座に百タラントであった。

38:28 また、千七百七十五シェケルで彼は柱の鉤を作り、柱の頭をかぶせ、柱に帯輪を巻きつけた。

38:29 奉献物の青銅は七十タラント二千四百シェケルであった。

38:30 これを用いて、彼は会見の天幕の入口の台座、青銅の祭壇と、それにつく青銅の格



子、および、祭壇のすべての用具を作った。
38:31 また、庭の回りの台座、庭の門の台座、および、幕屋のすべての釘と、庭の回りのすべての釘を作った。

24節にある金の量は1トンもの量です。他にも多くのものが心からささげられました。またたくさんの方の労力と技術とがささげられましたが、それは余裕のある人々によってではありませんでした。これからも長い荒野での旅路が待っている、危険と乏しさの中でのささげものです。

その信仰に主が現れてくださいます。また守りと勝利と祝福をくださるのです。私たちもそこから学び、そのような心で主にささげましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



14日 水曜

出エジプト

39:1 彼らは、青色、紫色、緋色の撚り糸で、聖所で仕えるための式服を作った。また、主がモーセに命じられたとおりに、アロンの聖なる装束を作った。

39:2 彼はまた、金色、青色、紫色、緋色の撚り糸と、撚り糸で織った亜麻布で、エポデを作った。

39:3 彼らは金の板を打ち延ばし、巧みなわざで青色、紫色、緋色の撚り糸に撚り込み、亜麻布に織り込むために、これを切って糸とした。

39:4 彼らは、エポデにつける肩当てを作った。それぞれ、エポデの両端につけられた。

39:5 エポデの上で結ぶあや織りの帯は、エポデと同じ材料で、主がモーセに命じられたとおり、金色、青色、紫色、緋色の撚り糸、撚り糸で織った亜麻布で、エポデと同様に作った。

39:6 彼らは、しまめのうを、金のわくにはめ込み、これに印を彫るようにして、イスラエルの子らの名を彫った。

39:7 彼らはそれをエポデの肩当てにつけ、主がモーセに命じられたとおりに、イスラエルの子らの記念の石とした。

39:8 彼はまた、胸当てを巧みな細工で、エポデの細工と同じように、金色や青色、紫色、緋色の撚り糸、撚り糸で織った亜麻布で作った。

39:9 四角形で二重にし、その胸当てを作った。長さ一あたり、幅一あたりで、二重であった。

39:10 それに、四列の寶石をはめ込んだ。第一列は赤めのう、トパーズ、エメラルド。

39:11 第二列はトルコ玉、サファイヤ、ダイ



ヤモンド。

39:12 第三列はヒヤシンス石、めのう、紫水晶。

39:13 第四列は緑柱石、しまめのう、碧玉。これらを金のわくに入れてはめ込んだ。

39:14 これらの宝石は、イスラエルの子らの名によるもので、彼らの名にしたがい、十二個で、十二の部族のために印の彫り物が、一つの名につき一つずつあった。

39:15 ついで、編んで撚った純金の鎖を、胸当ての上に作った。

39:16 彼らは金のわく二個と金の環を二個作り、二個の環を胸当ての両端につけた。

39:17 そして彼らは、二筋の金のひもを胸当ての両端の二個の環につけた。

39:18 その二筋のひもの他の端を、先の二つのわくにつけ、エポデの肩当てに外側に向くようにつけた。

39:19 ほかに、二個の金の環を作り、これを胸当ての両端、すなわち、エポデの前に来る胸当ての内側の縁につけた。

39:20 ほかに、二個の金の環を作り、エポデの二つの肩当ての下端の外側に、すなわち、エポデのあや織りの帯の上部の継ぎ目に接した面の上につけた。

39:21 胸当ては青ひもで、その環のところをエポデの環に結びつけ、エポデのあや織りの帯の上にあるようにし、胸当てがエポデからずり落ちないようにした。主がモーセに命じられたとおりにである。

祭司は「とりなし」という特別な働きをする聖なるものです。ですから罪ある人間がそのままできるものではなく、主の愛と義を身に着ける必要があります、それがこの装束です。またイスラエル

を記念するために、しまめのうの肩当てと宝石の胸当てとを身につけました。イスラエルへの慈しみの表れです。

私たちは新約の祭司です。すなわち、神様と神様から離れた人たちとの間にあって、とりなし宣教するものです。

自分自身の働きを自覚して、主の御心がよく表れるように行動しましょう。救われていない人と神とのとりなし手となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶15日 木曜

出エジプト

39:22 また、エポデの下に着る青服を青色の撚り糸だけで織って作った。
39:23 青服の口は、その真中であって、よろいのえりのようで、その口の周囲には縁をつけて、ほころびないようにした。
39:24 青服のすその上に、青色、紫色、緋色の撚り糸で、撚ったざくろを作った。
39:25 また彼らは、純金の鈴を作り、その鈴を青服のすそ回りの、ざくろとざくろとの間につけた。
39:26 主がモーセに命じられたとおりに、仕えるための青服のすそ回りには、鈴にざくろ、鈴にざくろがあった。
39:27 彼らは、アロンとその子らのために、織った亜麻布で長服と、
39:28 亜麻布でかぶり物と、亜麻布で美しいターバンと、撚り糸で織った亜麻布でもひきを作った。
39:29 撚り糸で織った亜麻布や青色、紫色、緋色の撚り糸で、刺繍してできた飾り帯を作った。主がモーセに命じられたとおりにである。
39:30 ついで、聖別の記章の札を純金で作し、その上に印を彫るように、「主の聖なるもの」という文字を書きつけた。
39:31 これに青ひもをつけ、それをかぶり物の回りに上から結びつけた。主がモーセに命じられたとおりにである。

エポデの下や頭のかぶりもの、すなわち見えない部分である内面や頭の考えも大切です。私たちにとっては聖なる御霊がその部分を「主の聖なるもの」としてくださるのです。
また金の鈴の音は、「主の前に働いているのだ」



という自覚を促します。祝福を表すざくろの果実の中にこの鈴があるように、私たちも主の祝福を喜びながら、厳かな思いで仕えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶16日 金曜

出エジプト



39:32 こうして、会見の天幕である幕屋の、すべての奉仕が終わった。イスラエル人は、すべて、主がモーセに命じられたとおりにした。そのようにした。

39:33 彼らは幕屋と天幕、および、そのすべての用具をモーセのところを持って来た。すなわち、それは、その留め金、その板、その横木、その柱、その台座、

39:34 赤くなめした雄羊の皮のおおい、じゅごんの皮のおおい、仕切りの垂れ幕、

39:35 あかしの箱と、その棒、「贖いのふた」、

39:36 机と、すべての器、供えのパン、

39:37 純金の燭台と、そのともしび皿、すなわち、一列に並べるともしび皿と、そのすべての用具、および、その燈火用の油、

39:38 金の祭壇、そそぎの油、かおりの高い香、天幕の入口の垂れ幕、

39:39 青銅の祭壇と、それにつく青銅の格子と、棒と、そのすべての用具、洗盤とその台、

39:40 庭の掛け幕とその柱と、その台座、庭の門のための垂れ幕とそのひもと、その釘、また、会見の天幕のための幕屋に用いるすべての用具、

39:41 聖所で仕えるための式服、祭司アロンの聖なる装束と、祭司として仕える彼の子らの装束である。

39:42 イスラエル人は、すべて、主がモーセに命じられたとおりに、そのすべての奉仕を行なった。

39:43 モーセが、すべての仕事を彼らが、まことに主が命じられたとおりに、したのを見たとき、モーセは彼らを祝福した。

イスラエルがこの場所（シナイ山）に着いてから、10ヵ月近くも経ちました。その間、民が偶像を造るなどの反逆もありましたが、人々は心を新たに主に従い、多くのものを心を込めて造りました。

幕屋と器具が表すのは、この世からの聖別（33～）、主の臨在（35～）、聖霊（37～）、犠牲による贖い（38～）、とりなし手のあり方（41～）などです。民にとってはこれが赦しと救いの原点であり、モーセはこれまでの彼らの不従順も超えて、大いに祝福したことでしょう。

このように、不従順や失敗があっても、主のために再出発しましょう。そして心から従い、祝福を受けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶17日 土曜

出エジプト

40:1 主はモーセに告げて仰せられた。
40:2 「第一の月の一日に、あなたは会見の天幕である幕屋を建てなければならない。
40:3 その中にあかしの箱を置き、垂れ幕で箱の前を仕切り、
40:4 机を入れ、その備品を並べ、燭台を入れ、そのともしび皿を上げる。
40:5 あなたは香のための金の壇をあかしの箱の前に置き、垂れ幕を幕屋の入口に掛ける。
40:6 会見の天幕である幕屋の入口の前に、全焼のいけにえの祭壇を据え、
40:7 会見の天幕と祭壇との間に洗盤を据えて、これに水を入れる。
40:8 回りに庭を設け、庭の門に垂れ幕を掛ける。
40:9 あなたは、そそぎの油を取って、幕屋とその中のすべてのものにそそぎ、それと、そのすべての用具とを聖別する。それは聖なるものとなる。
40:10 あなたは全焼のいけにえの祭壇と、そのすべての用具に油をそそぎ、その祭壇を聖別する。祭壇は最も聖なるものとなる。
40:11 洗盤とその台とに油をそそいで、これを聖別する。
40:12 アロンとその子らを会見の天幕の入口に近づかせ、水で彼らを洗い、
40:13 アロンに聖なる装束を着けさせ、彼に油をそそぎ彼を聖別する。彼は祭司としてわたしに仕える。
40:14 彼の子らを近づかせ、これに長服を着せなければならない。
40:15 あなたは、彼らの父に油をそそいだように、彼らにも油をそそぐ。彼らは祭司とし



てわたしに仕える。彼らが油をそそがれることは、彼らの代々にわたる永遠の祭司職のためである。」

40:16 モーセはそのようにした。すべて主が彼に命じられたとおりを行なった。

いよいよ幕屋が建てられ、器具が運び込まれます。器具は主の働きをして、主の聖なる性質とその救いを表すものですが、その位置が大切です。またアロンとその子らが正しくこれらを用いなければなりません。

私たち自身も、主の聖と救いを表すために存在しています。礼拝や奉仕において、ただそこに出席しているだけで、何も考えずに終わっていないでしょうか？ 自分に与えられた役割を果たし、正しく心を込めて行っているでしょうか？ 神のすばらしさと救いを表すために、自分自身が機能するものとなりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



▶18日 日曜

出エジプト

40:17 第二年目の第一月、その月の第一日に幕屋は建てられた。

40:18 モーセは、幕屋を建てる時、台座を据え、その板を立て、その横木を通し、その柱を立て、

40:19 幕屋の上に天幕を広げ、その上に天幕のおおいを掛けた。主がモーセに命じられたとおりである。

40:20 また、彼はさとしを取って箱に納め、棒を箱につけ、「贖いのふた」を箱の上に置き、

40:21 箱を幕屋の中に入れ、仕切りのために垂れ幕を掛け、あかしの箱の前を仕切った。主がモーセに命じられたとおりである。

40:22 また、彼は会見の天幕の中に、すなわち、幕屋の北のほうの側で垂れ幕の外側に、机を置いた。

40:23 その上にパンを一行に並べて、主の前に供えた。主がモーセに命じられたとおりである。

40:24 彼は会見の天幕の中、机の反対側の幕屋の南側に、燭台を置いた。

40:25 そうして彼は主の前にもしび皿を上げた。主がモーセに命じられたとおりである。

40:26 それから彼は、会見の天幕の中の垂れ幕の前に、金の壇を置き、

40:27 その上でかおりの高い香をたいた。主がモーセに命じられたとおりである。

40:28 彼は、幕屋の入口に垂れ幕を掛け、

40:29 全焼のいけにえの祭壇を、会見の天幕である幕屋の入口に置き、その上に全焼のいけにえと穀物のささげ物とをささげた。主がモーセに命じられたとおりである。



40:30 また彼は、会見の天幕と祭壇との間に洗盤を置き、洗いのために、それに水を入れた。

40:31 モーセとアロンとその子らは、それで手と足を洗った。

40:32 会見の天幕にはいるとき、または、祭壇に近づくと、彼らはずっと洗った。主がモーセに命じられたとおりである。

40:33 また、幕屋と祭壇の回りに庭を設け、庭の門に垂れ幕を掛けた。こうして、モーセはその仕事を終えた。

幕屋が建てられました。イスラエルの感激は相当なものだったでしょう。エジプトから出発して1年も経っていません。彼らは、主の導き、荒野の苦難、自らの不信仰、主の臨在とその必要性をつくづく味わったのでした。器具とそれらの位置について、その意味を深く感じたことでしょう。

このように主を礼拝し交わる者は、自分自身と向き合い、その上で主のすばらしさをたたえるのです。主との関係をより良いものにしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

